

令和元年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名 山村活性化支援交付金

2. 事業実施主体名 天川村

3. 事業概要

・事業目的

天川村洞川地区で試験栽培が行われている「四季成りイチゴ」の試験栽培を商業生産規模拡大することで、近畿地方で唯一の四季成りイチゴ産地として育て、地域内外へ商品の供給を行い、地域の新たな特産品として産地化を推進する。これにより、販売額を増やし、栽培面積の拡大に伴う雇用者の増加及び新たな加工品の開発・販売などの雇用も見込まれることから、地域全体の活性化に大きく寄与する。

・事業費・交付額(単位:円) 事業費 8,151,934円 交付額 5,273,937円

・事業実施期間 令和元年6月5日 ～ 令和2年3月31日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

栽培手法に多少問題があったが、品質に関しては高評価を各方面から得ており、今後の栽培手法を徹底すれば安定的な収量を確保できることが期待される。また、販売に関しては、供給が間に合わないほどであり、付加価値の付いた希少な特産品として販売され、生産者の所得向上に繋がると思われる。

(2) 取組状況

実施計画11項目中、10項目(90%)の実施を確認したため、A評価とする。主な取組は下記のとおり。

○四季成りイチゴ栽培に関する取組

前年度と同様に適正な温度管理、液肥濃度の管理、収穫量の記録に努めるなど、今後の栽培のマニュアル化に向けた取組が行われている。今後もこの取組は継続する。今年度は新たに「信大BS8-9」の開発者である信州大学の井教授に栽培指導を行ってもらい取組を開始。

○販売促進に関する取組

四季成りイチゴの栽培と販売に関する検討会を各関係機関で開催し、顧客ターゲットを絞り、重点的に営業活動を開始。その結果県内外に約20店舗の顧客を獲得し、本格的な販売を開始した。今後としては栽培面積の許容範囲内で更なる付加価値創出を見込める顧客の選定、営業活動を行う。

(3) 事業実績

下記のとおり目標値を下回るものもあるが、評価上の達成率を満たしているためA評価とする。

・生産者数は、目標値3人に対し、実績値3人(達成率100%)であり、目標値を達成している。

・収穫量は、目標値1,900kgに対し、実績値1,711kg(達成率90%)であったが、5～6月の摘花作業が不十分であったため、今後は摘花作業を徹底的に行うことで目標値を超える収穫量が見込める。

・販売額は、目標値4,670,000円に対し、実績値2,951,149円(達成率63%)であったが、前述のとおり摘花作業が不十分であり、需要が最も見込める8月に苗の活動力が低下してしまい、供給不足に陥ったため、販売額が伸び悩んでしまった。今後は摘花作業を徹底的に行うことで安定供給が見込める。

・加工品開発数は、目標値10品に対し、実績値10品(達成率100%)であり、目標を達成している。栽培地の洞川区は観光客が入りが多く、飲食店等も多いため、今後も加工品の品数は増加することが期待される。さらに県内外の販売先の製菓店等で様々な加工品が開発されている。

(4) 実施体制

事業実施主体は各関係機関と連携し、検討会を年4回開催するなど、取組体制は十分に機能している。取組体制は機関ごとに役割が決められており、各自がその役割を全うできる状況にあった。検討会の開催により、各自の取組の結果を報告することで、組織全体の情報共有も行われており、今後もこの体制を続けることになると思われる。

(5) その他事項 無し

5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
・ 生産者数	3人	3人	100%
・ イチゴ収穫量	1,900kg	1,711kg	90%
・ 販売額	4,670,000円	2,951,149円	63%
・ 加工品開発数	10品	10品	100%

(計測方法)

生産者・・当地域でのイチゴ生産組合の生産者数で確認した。

収穫量・・生産者が収穫毎に収穫量の記録を行うことで算出した。

販売額・・令和元年度分の販売額から確認した。

加工品販売額・・令和元年度に村内外で開発された加工品の品目数によって確認した。

・所見

令和元年度の取組み状況は概ね評価できるが、目標達成に至っていない点においては、来年度以降の課題として積極的に取り組んでいきたい。